

京町・新京橋商店街

(京町・新京橋商店街振興組合)

高知県高知市

インバウンド

地域協働

新陳代謝

生産性向上

ポイント

チャレンジショップ事業で空き店舗率の改善に成功。

商店街が若者やボランティア団体など次世代を担う人材の活動の場に。

基本データ

所在地	高知県高知市はりまや町
人口	約 33 万人 (高知市)
電話/FAX	088-825-0787 / 088-825-0787
会員数	77 名
店舗数	52 店舗 (小売業 34 店、飲食業 7 店、サービス業 7 店、金融業 1 店、医療サービス業 2 店、その他 1 店)
商店街の類型	エリア価値向上型
主な客層	主婦、高齢者 / 40 歳代、50 歳代

商店街概要

京町・新京橋商店街は高知市中心商店街の東エリア、観光名所「はりまや橋」のすぐ北側に位置し、県内唯一の百貨店を取り囲むように構成された江戸時代から続く歴史ある商店街である。店舗構成としては、はりまや橋の観光客へのお土産物店・サンゴ店と、ファッションなどの高級品店が並び、全店舗数のうち買い回り品店舗が約 60% を占めている。

平成 17 年のショッピングモール撤退以降、空き店舗が増え始め、一時は空き店舗率が 18.6% になった。中心商店街の東の入口に当たる当商店街の空き店舗の削減が、訪れる観光客の回遊性を向上させるための大きな課題となっている。

取組の背景

大規模小売店舗の撤退により空き店舗が増加

中心市街地では、平成 14 年 12 月の百貨店撤退をはじめ、平成 17 年 11 月のショッピングモール撤退、平成 18 年 10 月のスーパーマーケット撤退と、大規模小売店舗の撤退が相次いだ。特に、平成 17 年にショッピングモールが撤退した影響は、直近の 3 商店街で、歩行者通行量が対前年比 20% 前後の減少となって顕在化し、その後も続く緩やかな減少傾向につながっていった。

同様に、空き店舗率も、平成 17 年には中心商店街全体で 5.2% (京町・新京橋: 1.67%) だったものが、平成 20 年には中心商店街全体で 11.96% (京町・新京橋: 18.64%) と激増し、平成 26 年においても 11.12% と回復傾向が見られない。

また、京町・新京橋商店街では、近年 100 坪ほどの大きな専門店の閉店が 2 件続いており、こうした空き店舗の解消とともに、若者や女性などとの交流を深めることで、次世代の担い手を獲得していくことが求められていた。

取組の内容

単に埋めるだけではない空き店舗対策

商店街では、商店街の新陳代謝を促す新規開業支援のために、「京町チャレンジショップ」を平成 23 年度から継続して実施。平成 29 年 12 月現在まで

に 23 組がチャレンジしており、平成 30 年 3 月から出店する第 9 期のチャレンジャー 3 組も決まっている。

この事業では、半年～1 年間のチャレンジ期間中に経営ノウハウ (仕入れの割合、仕入れ以外の必要経費のシミュレーションなど) のアドバイスや出店に向けてのサポートが受けられる。また、商店街で開業する場合には、開業時に県の店舗改装費補助 (上限 100 万円) や市の家賃補助 (月額 10 万円まで、6 か月分) といった支援を受けることができ、地域としてサポートする体制が整っている。



「京町チャレンジショップ」

このチャレンジショップの隣では、福祉ボランティア団体の「タウンモビリティステーションふくねこ」が、障がい者や高齢者にも中心商店街を楽しんでもらうため、ボランティアの付き添い (500 円) を実施しているほか、車椅子、シルバーカー、ベビーカーなどの無料貸出しも行っている。

また、他の空き店舗活用方法として、平成 25 年

11月には高知市が学生のボランティア活動や創作物の展示等に使えるスペース「高知市学生活動交流館」をオープン。大学のゼミや大学生のサークル活動で利用されているほか、平成29年9月には地元高知で活躍するまんがグループの高知漫画集団がグループ展を開催した。

このように、商店街では、単に空き店舗を埋めるだけではなく、次世代を担う若者やボランティア団体といった様々なコミュニティの形成を促進するとともに、今後益々進展する高齢化社会を見据え、高齢者や障がい者にやさしいまちづくりに取り組んでいる。



「高知市学生活動交流館」



大学生のゼミの様子

取組の成果

空き店舗率が大幅改善、今後の計画も

平成23年から実施しているチャレンジショップ

事業は、平成29年2月までに20組が卒業し、半数以上が開業（うち、5組が中心商店街で開業）している。商店街の空き店舗率は、平成20年の18.64%から改善し、平成26年6.78%、平成28年7.02%と、7%前後で推移するようになった。

一方で、商店街には、雨漏りなど建物の老朽化に直面している店舗も少なくない。地区内は建て詰まり状態にあり、新たな施設整備以前の課題である建て替えや補修も容易ではないが、現在100坪ほどの空閑地が2件あることを踏まえ、商店街では、今後、商店街らしい街並みの形成と、心地よい公共空間の整備につながる再開発や区画整理による立体換地、あるいは共同建て替え事業などの学習を始めることとしている。

実施体制

チャレンジショップの出店者は、京町・新京橋商店街振興組合内の「京町チャレンジショップ運営委員会」が、県・市と連携して、毎回、応募者の書類選考や面接審査を通して決定している。

また、高知県立大学の子学生による「エスコーターズ」や、福祉ボランティア団体の「タウンモビリティステーションふくねこ」など、地元の若者や女性を活かしたイベント等での連携が商店街の強みとなっている。

「エスコーターズ」は平成13年に結成された学生団体で、毎週日曜日、商店街を巡回して、行き交う人々に明るく挨拶をしながら、街路の清掃、自転車の整理、障がい者等の介助、お店の案内などを行っており、商店街が費用を負担して手当を支給する有償ボランティアだが、大学のサークル活動として公認されており継続性のある協力体制が構築できている。

キーパーソンからのコメント



京町・新京橋商店街振興組合
理事長 安藤 浩二



京町・新京橋商店街振興組合
写真左より
副理事長 金澤 正信
理事長 安藤 浩二
副理事長 野中 聡一郎
副理事長 楠本 唯貴

心の通い合う場所になりたい

当商店街には、よさこい祭り・土曜夜市など先人が培ってきた地域貢献という伝統があります。それは必ずしも商業活動に結びつくものではありません。市民・県民との連携・交流を通じて、商店街が心の通い合う場所になりたいと考えています。

「チャレンジショップ」「タウンモビリティステーションふくねこ」「学生活動交流館」の3つの施設を中心に様々な人材が交流を深め、学習やイベント等の活動が広がっています。

商店街を活躍の舞台に

県・市・会議所・大学・大学生のサークル・NPO法人・ボランティア団体など多くの方々の協力と、空き店舗の家主さんの理解を得て、3つの施設を核に活動の輪が広がってきました。エスコーターズ・ボランティアサークル・スポーツゴミ拾い等を行う高知大・県立大の学生たちの活動を商店街では心から喜んでいまずし、刺激を受けています。

これからも多様な人たちが当商店街から中心商店街全体を舞台に活躍してほしいと思います。